

ANNUAL REPORT 2015

2016年1月期 アニュアルレポート



目次

社長挨拶	_____	3 ページ
財務ハイライト	_____	4 ページ
事業概況	_____	6 ページ
組織図	_____	8 ページ
企業活動 (CSR)	_____	8 ページ
会社概要・沿革	_____	13 ページ



経営理念



自然と人間が、いっしょに幸せになる仕事

社会・経済構造が劇的な変化を遂げ、確たる指標なき時代、企業は自身の哲学を掲げることに
よって自らの道を切り拓かねばなりません。哲学のない企業に未来を創造することはできない。

—— 私どもが自ら質すなかで出した答えは

「自然と人間（みんな）がいっしょに幸せになる仕事」というキーワードです。

ここにはく地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主＞という5つのステークホルダーとの共存共栄が謳われています。この5つのステークホルダーとの共存による「幸せの輪」の創造こそ、私どもが目指す企業像です。

たとえば、どんなに企業の利潤が上がっても、その事業が地球の環境破壊を引き起こしていたり、社会倫理に反していたりしたら、その企業は優良と呼べるでしょうか。そこに働く社員や家族は幸福と言えるでしょうか。ひとりひとりの社員が、自分の仕事がお客様に喜んでいただける、社会に貢献していることを実感できてはじめて自らの仕事に誇りと責任感を持つことができます。そして、その責任感はビジネスパートナーとの相互信頼を育み、共に成長しお互いの事業の成功と発展にもつなげられるのです。さらに事業の成功は利潤を生み、株主の皆様にもご満足いただくことができると考えます。

白崎コーポレーションはこの「幸せの輪」の実現に向けて、ここに掲げた経営理念をすべての企業活動の礎とするべく胸に刻み込み、社会から尊敬される企業となれるよう、そしてトップを含め社員みんなが夢を語り合える企業となれるよう、今後も自らを厳しく律しながら挑戦を続けてまいります。



経営方針

- 一、 私たちはいつも環境に心を配り、地球の繁栄につくしていきます。
- 一、 私たちは顧客満足度の向上に努め、お客様の信用をたかめていきます。
- 一、 私たちはビジネスパートナーと共に歩み、確かな信頼関係を築いていきます。
- 一、 私たちは日々の仕事を通して自己を高め、豊かな未来をつくっていきます。
- 一、 私たちは適正な利潤を追求し、株主のみなさまの期待に応えていきます。



ミッション・ビジョン

ミッション 私たちは事業を通じて社会に貢献できる人を育てます。

ビジョン 全社員が自分の会社に誇りを持てるような最高の中小企業になります。



社長挨拶

「2015年度（61期）を振り返って」

代表取締役社長 白崎 弘隆

まずは4月14日に発生した熊本地震で被災された方々にお見舞い申し上げます。出来るだけ早い復興をお祈り申し上げるとともに、会社としても個人としても出来る範囲での応援をしていきたいと思えます。

さて、昨年を振り返ると国内では3月に北陸新幹線が開通し、その終着駅となった金沢などでは予想通り大きな経済効果が出ました。一方、新幹線がまだ来ていない福井ではそれほどメリットはないと思われていたのですが、県北部の観光地などではプラス効果も出ていたようです。

一方、世界に視野を広げると、イスラム国によるテロ事件の発生や原油価格の下落、中国経済の落ち込みなどの影響で、世界経済の減速が心配されています。

そのような状況下で、当社の7年計画の2年目であった昨年は、全体としてなんとか目標をクリアすることができました。事業部別に見ると、サプライビジネス事業部では業界全体の安売り競争は若干落ち着いてきているようにも見えますが、未だ予断を許さない状況です。そのような中でも新規顧客の開拓に工夫を凝らし、売上は若干のプラスに転じました。経常利益は昨年より減少したものの、当初予算は達成することができました。また、事業部で取り組んできた新規商材の開発については、事業の発展性に問題があるということで他社に譲渡することになりました。62期については営業部門の人員の一部をグリーンナップ事業部に移籍させ、よりコンパクトな組織体制を作りました。

一方、グリーンナップ事業部では太陽光発電所の防草工事が伸びてきています。公共事業と違い、顧客の雑草対策に対する理解が十分でないために、金額だけで評価されているケースが多そうですが、丁寧な説明を継続することによって徐々に顧客の理解も深まっていると思います。また、サプライビジネス事業部から移籍したメンバーを中心に民間市場の開拓に力を入れていきます。まずは市場のセグメント分けとターゲットにする市場を絞り込み、それぞれのニーズを掘り起こしてそこに対して商品開発を進めることで新しいマーケットを作り出すことが必要だと考えています。今後も成長を続けていくために、既存市場も含めてニーズの掘り起こしとそれに対する解決策となる商品開発に力を入れていきます。


 財務ハイライト

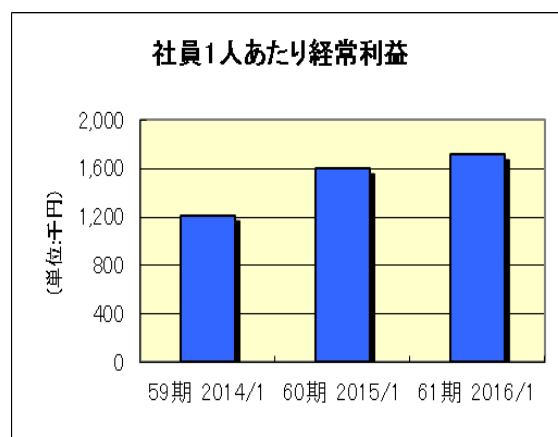
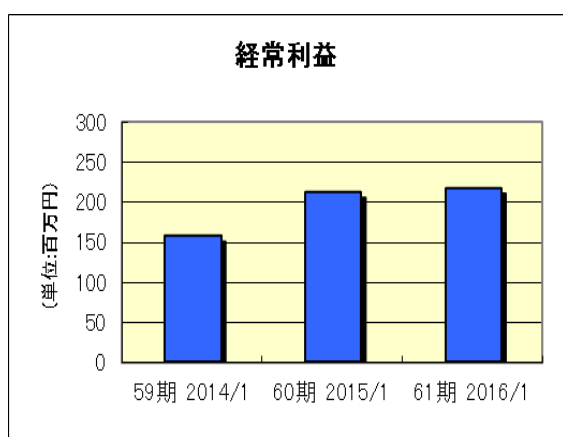
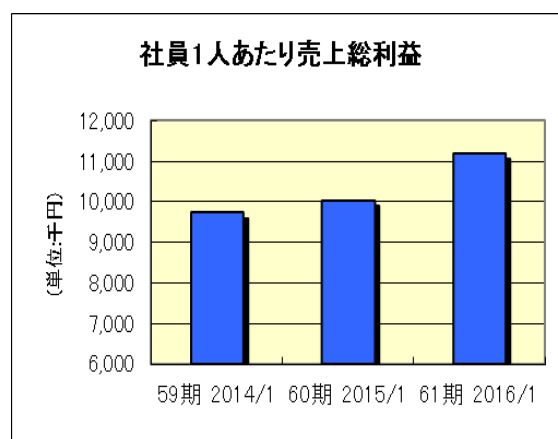
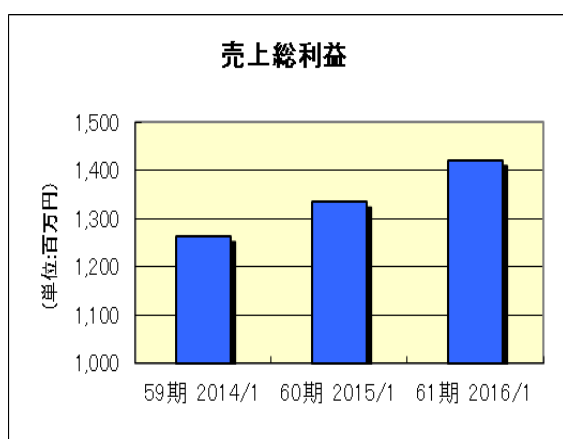
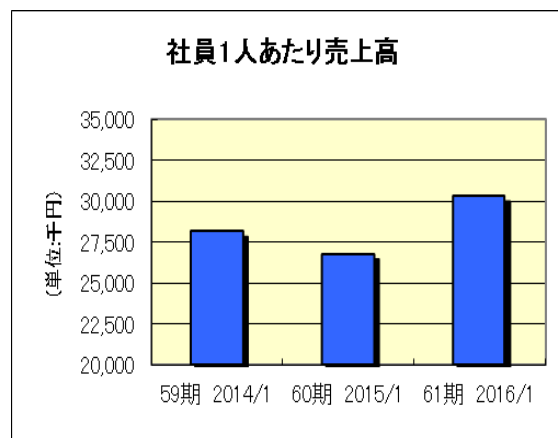
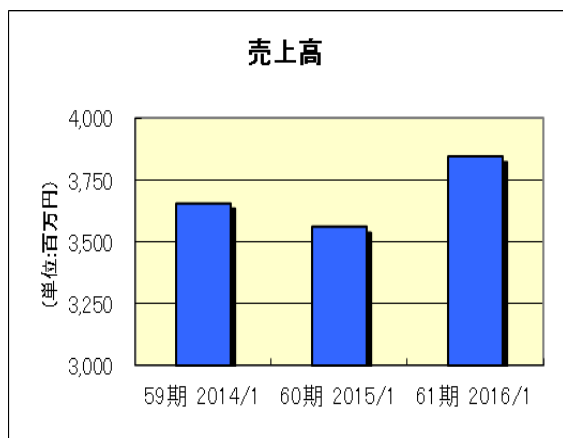
	単位	59期 2014/1	60期 2015/1	61期 2016/1
売上高	千円	3,658,731	3,561,377	3,848,087
売上総利益	千円	1,263,496	1,333,632	1,420,283
売上総利益率	%	34.5%	37.4%	36.9%
経常利益	千円	156,683	211,902	217,141
経常利益率	%	4.3%	6.0%	5.6%
総資産	千円	2,314,204	2,664,429	2,791,566
自己資本	千円	1,217,677	1,203,470	1,321,369
自己資本比率	%	52.6%	45.2%	47.3%
総資産経常利益率	%	6.8%	8.0%	7.8%

2014年1月期から2016年1月期までの白崎コーポレーションの決算の数値を掲載しています。

売上高につきましては、再生トナーカートリッジや事務用消耗品の販売を行うサプライビジネス事業では、ユーザーの新規開拓が進み19億3,480万円と前期比2%の増収となりました。また、防草シートや緑化資材の販売を行うグリーンナップ事業では、民間企業や農業分野での受注拡大もあり、18億7,570万円と前期比13%の増収となりました。これらに太陽光発電事業の売電収入を含め、全体では38億4,808万円と前期比8%の増収となりました。

利益面につきましては、効率改善によるコストダウンや経費削減に加えて、太陽光発電事業の売電収入も増加したために、2億1,714万円の経常利益となりました。

今期はお客様や地域に密着し、特有のニーズへの対応による信頼関係の構築を図るとともに、既存事業を基盤とした新しい産業を創造する企業を目指して、新規市場開拓と新製品の開発に取り組んでいきます。



 事業概況

■ グリーンナップ事業部

取締役グリーンナップ事業部長 中川 豪

- ・ ミッション 防草緑化事業を基盤とし、快適な生活空間を提供します。
- ・ ビジョン 防草緑化の資源を最大化し、新しい産業を創造する企業を目指します。

グリーンナップ事業部の2015年度は、前年対比で着実に実績を積み上げることが出来、中長期計画（7年計画）実現に向けて一定の結果を残すことが出来ました。

しかし、市場別では前期の重要市場として捉えていた公共事業や太陽光発電市場で計画通り実績を伸ばすことが出来ず、課題も浮き彫りになりました。公共事業は安定市場として重要ですが、競合会社や代替品の参入が多くなり、競争環境が大きく変化しています。お客様が抱える雑草問題を地域ごと、場面ごとでしっかり整理し、信頼されるような提案や満足いただけるような解決方法を提供していきたいと考えています。太陽光発電市場は成長市場として期待していますが、最近では固定買取り価格の下落の影響により、新設工事が減少し、そして既に稼働している発電所でも雑草管理コストと防草シート導入コストに開きがあり、順調な受注までには至りませんでした。しかし雑草の特性である「増える・広がる・変化する」から想定すると、経年ごとに問題が顕在化し、大きくなることは間違いありません。お客様が安易なコスト志向で資材を選び、間違った使い方期待する管理の軽減につながらないことがないように、引き続き当社が啓蒙し、適切な方法を提案することが大切な役割と考えています。

今期の戦略ポイントは、「地域密着型の強化」と「中長期視点での次の柱作り」です。地域密着型の強化とは、今までの国土交通省で導入された実績と経験を基に、地方自治体まで営業の展開を強化することです。雑草問題や景観向上対策は、結局のところ地域特有の課題であるため、地域やお客様との距離感を大切に、当社のきめ細やかな対応を地域社会に提供したいと考えています。また、次の柱作りとは、今までの防草・緑化技術を基盤として、新規事業や新商品・サービスの開発、人材育成に注力していくことです。今期からは重要市場として従来からの公共事業、太陽光発電市場、農業市場に、新たに民間市場（流通小売店・製造工場の敷地管理）を加えました。その民間市場を担当する部署を新規に作り、通販と連携しながら材料販売から施工まで一元的なサービスの提供を目指していきます。また新商品・サービスの開発では、特定の強害雑草をテーマにして研究機関や専門機関と連携を取りながら進めていきたいと考えています。

グリーンナップ事業部の利益の源泉は働く社員です。その社員が競合との差異性を生み出し、社員が提供するサービスでお客様の満足度を高めていきます。今期からは社員教育を階層別、職種別、テーマ別に分けてしっかり取り組み、中長期計画の実現に向け着実に進めていきます。

■ サプライビジネス事業部

取締役サプライビジネス事業部長 相澤 英昭

- ・ ミッション 私たちは再生トナーを中心に、お客様の利益に貢献できる、製品・サービスを提供します。
- ・ ビジョン 私たちは再生トナービジネスを原点として、さらなる分野・市場に進出するものづくり企業を目指します。

サプライビジネス事業部の2015年を振り返ってみますと、一時期に比べ市場環境は若干良くなってきたように感じますが、再生トナーカートリッジの販売単価は引き続き下落傾向にあり、収益の柱としている再生トナーカートリッジの市場環境は未だ厳しい状態にあります。事業部として一定の利益は確保できましたが、収益を安定させるためにはまだまだ改善を続ける必要がある状況です。

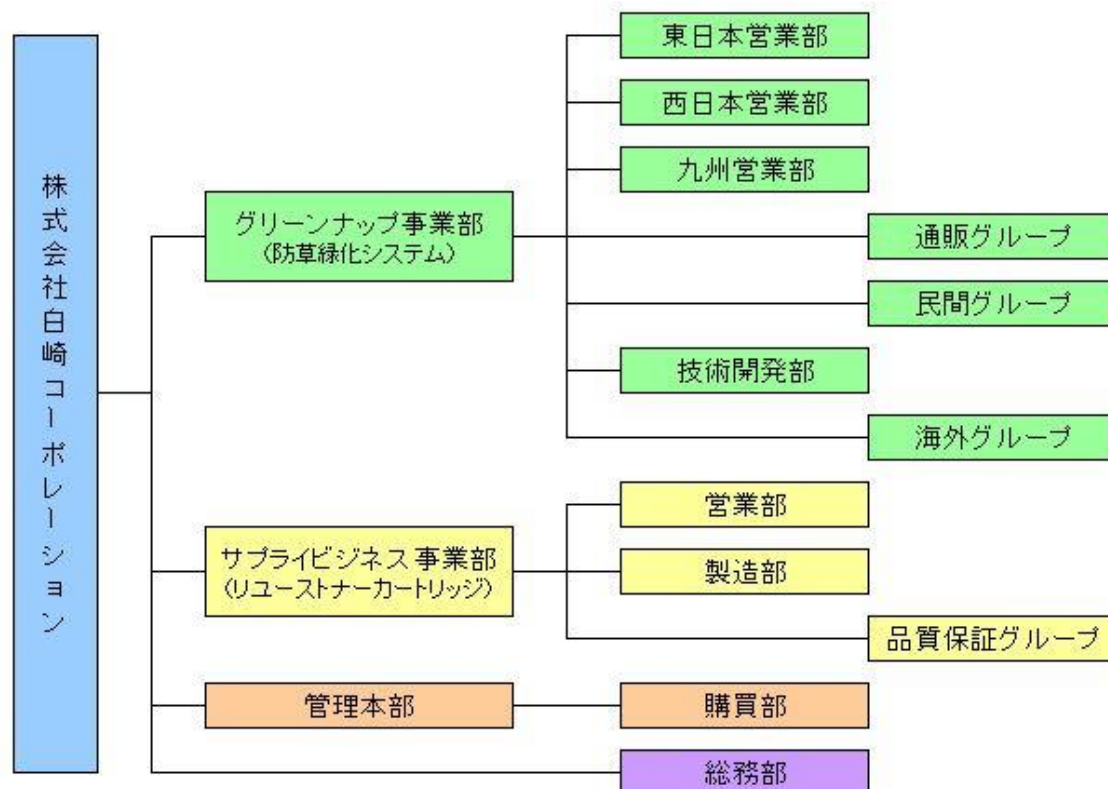
現在の再生トナーカートリッジ市場は、成長の伸びが鈍化しているために同業者間でのお客様の取り合いが増えており、結果として価格競争が激化しています。また、海外から流入してくる模倣品やコンパチ品、すなわち再生トナーカートリッジとは異なり全てのパーツを新たに製造して組み立てた違法性の高い製品が増えていることも、価格競争を助長する一因となっています。さらに為替の影響等もあり、原材料の高騰や運送費の値上げなど、収益を圧迫する要因も増えてきています。このような市場環境の中で事業撤退を選択する会社もここ数年増えてきました。同業者と同じ土俵で勝負をするのは消耗戦となりやすく、当事業部としても望むべきものではありません。

そこで当事業部ではここ数年、純正トナーカートリッジを使用しているお客様に対して安心して再生トナーカートリッジをご使用頂けるような取り組みに注力してきました。純正トナーカートリッジを使用しているお客様を再生トナーカートリッジユーザーに変えていくことで再生トナーカートリッジ市場が拡大し、引いては業界発展につながります。ただし、純正トナーカートリッジを使用しているお客様に再生トナーカートリッジをご使用頂くのは容易なことではありません。そこで当事業部では業界でもトップレベルの品質とサービスという自分たちの強みを生かし、再生トナーカートリッジのご使用に際し様々な不安を抱えているお客様の不安を解消出来るような提案を行うことで、安心してご使用頂けるような取り組みを行っています。そのためにはお客様との信頼関係を構築し、その上で使用環境や出力原稿、使用頻度など様々な観点から当社の再生トナーカートリッジで問題が発生しないかを検証したのち、ご納得頂いた上でご使用頂くという流れを大切にしています。

当事業部として2016年は再生トナーカートリッジビジネスで地盤固めを行う年と位置付け、上記のような取り組みをさらに強化し業界発展に貢献してまいります。再生トナーカートリッジの市場環境は厳しい状態にありますが、事業部一丸となって頑張りますので引き続きご支援、ご指導よろしくお願いたします。



組織図




CSR（企業活動）

先進国では社会が豊かになるに従い、経済成長以外のさまざまな価値観が生まれ、企業評価の指標として、法律や制度で定められた範囲を超えて「よりよい行動」をすることを望ましいとする傾向が生まれています。白崎コーポレーションでは、経営理念、経営方針として、企業活動をめぐる5つのステークホルダー（地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主）との共存共栄を、また、ミッションとして、社会に貢献できる人財育成を掲げて、CSR活動体制の整備と強化を行っています。企業に求められる社会的責任の内容は、時代とともに変化していきます。積極的な働きかけにより地域社会の抱えている問題を十分認識したうえで、事業を通じて蓄積したノウハウや能力を社会に還元し、問題解決に貢献していくことが、地域社会からの信頼につながるものと考えています。

【1】法令及び企業倫理の遵守

■企業倫理

2001年に企業倫理の徹底を図るため、以下の5項目からなる「倫理二十五箇条」を制定しました。

1. 職場環境
2. 5S活動
3. 環境
4. 営業・業務活動
5. 会社資産の保護

これを社員全員が「経営理念」「経営方針」といっしょに毎日の朝礼で唱和をすることにより、理解の徹底から実行を図っています。

■お客様情報及び個人情報の管理

社内の情報管理につきましては、以下の5つのセキュリティールールを定め、情報管理研修を実施するとともに全社員から誓約書を徴収し、情報漏洩の未然防止を図っています。

1. パソコンの利用に関するセキュリティールール
2. 外部媒体の利用に関するセキュリティールール
3. メール利用に関するセキュリティールール
4. インターネット利用に関するセキュリティールール
5. 白崎ネット（当社グループウェアシステム）へのアクセスに関するセキュリティールール

また、特に個人情報の取扱いにつきましては、その取得から利用、開示、利用停止、消去に至る詳細な運用ルールを定め、個人情報の保護に努めております。

【2】社会性報告

1. 社員とともに

当社の使命は「事業を通じて社会に貢献できる人を育てる」ことであり、そのためには「社員は財産（人財）」と考えています。社員が安心して働ける環境を整え、自ら考え、学び、行動できるような様々な制度や仕組みを作り、社会に貢献できる人づくりを推進しています。

■新卒採用 ～若いフレッシュな感覚に期待～

2007年から新たに採用戦略を構築し、新卒採用活動を積極的に推進しています。若手社員をリクルーターに選抜し、彼らを中心に会社説明会や面接等を運営しています。2016年4月には6名の有望な人財を採用することができました。

■社員教育

社員の能力開発と挑戦する組織風土の形成を目指して、2005年度に教育体系をOJT・集合研修・自己啓発の三本柱として再編成を行い、2006年度から本格的な社員教育を実施しています。社員教育の基本は職場における指導・育成であるOJTにありますが、OJTでは補い切れない能力開発の場として階層別やテーマ別の社内研修を推進しています。2015年度は、管理職を対象とした外部講師によるリーダーシップ研修を実施しました。

また、通信教育受講や社外研修等参加の費用補助も実施しており、社員の積極的な自己啓発の取り組みを支援しています。

■ビジネスキャリア検定試験と公的資格 ～専門能力と管理能力～

自己啓発の動機付けと、取得能力を評価・測定するツールとして、「ビジネスキャリア検定試験」の受験を推奨しており、春と秋に実施される試験には毎年多くの社員が受験しています。合格者は社内の掲示板に掲載し、昇格試験にも活用しています。例えば、部長クラスであれば、職務分野2級1科目以上および共通分野（労務管理、経営戦略など）3級1科目以上の合格が必須となっており、専門能力と管理能力の両面の自己啓発が要求されます。また、業務に関連した公的資格への挑戦も奨励しており、難易度に応じてビジネスキャリア検定合格と同等の評価をしています。

■目標管理制度 ～目標は自分で考え、決めて、実行～

当社の目標管理制度は、社員一人ひとりがそれぞれの部署の目標をもとに、上司との話し合いを通じて自分の仕事の目標を立てて計画的に取り組み、上期・下期の年2回達成度合を評価する制度です。個人の目標は上司から与えられるものではなく、まず自らが考えて、上司との個人面談を通して十分に話し合っ決めてることになっており、社員の自発的な行動を促す仕組みとなっています。

■褒める社風の定着 ～社員表彰制度～

会社や社会に貢献した社員を全員で褒め称えるために、以下の4つの表彰制度を制定し、広く社内に公開しています。

1. 永年勤続表彰
2. 白崎MVP
3. 改善提案優秀賞
4. 5S大賞

特に白崎MVPは2001年から続いており、社員相互により推薦された中から選抜されます。それらはすべてが公開され、ボランティア活動や他部門との連携・協力など、自分の業務以外の功績による推薦も多数見受けられます。

2. 地域社会とともに

企業も社会の一員であると考え、積極的な社会貢献活動に取り組むことにより社員の社会貢献意識を高めています。さまざまな活動を通じて地域の方々との交流を図り、地域社会と共に成長していきたいと考えています。

■環境教室

地元の小学生を工場見学に招待し、最初にリサイクルや環境保護に関する説明を当社の事例を挙げながらセミナー形式で行い、その後で工場の製造現場に入って実際に物づくりの作業を見てもらうというものです。小学5年生児童の環境に関する課外活動として学校単位で参加していただいておりますが、工場内に子供達の元気な声が満ち溢れ、また積極的な質問が次々に出てきて環境への関心の高さに驚かされました。環境教室を通じて子供達の環境を大切にしたいという想いを高めていくお手伝いができればと考えています。

■NPO法人への支援

NPO法人「緑地雑草科学研究所」は、人々の生活圏の緑地環境を創り向上させることを目的として設立されました。そのNPO法人を支援することにより、適切な雑草の制御技術や利用技術の確立と普及活動に貢献しています。

■納涼祭

近隣住民の方々を福井工場に招待しての納涼祭は、毎年恒例の行事として定着しています。当社のOBの方々も多数参加され、社員と一緒に焼きそばや焼き鳥、イベントなどを楽しむ交流の場として非常に好評をいただいております。2012年からは若手社員が中心となって企画から実施までの運営を行い、若手社員と他部署の社員とのコミュニケーションを深める良い機会にもなっています。

【3】 環境保護活動の実績

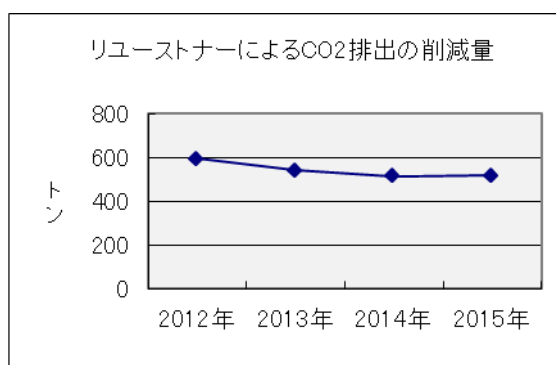
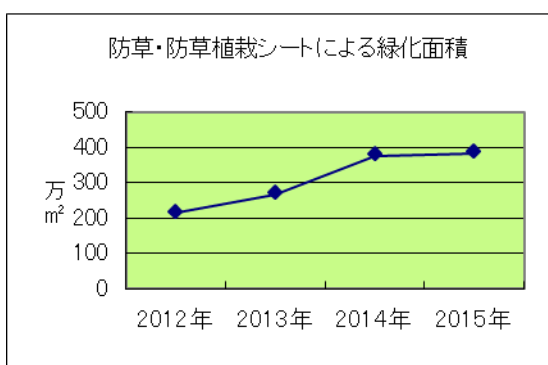
当社では限られた資源を有効に活用し、できるかぎり環境に負担をかけない企業活動に全事業所で取り組んでいます

■防草緑化事業による環境保護

雑草を抑える防草シートや雑草を抑えながら目的の植物を育てる防草植栽シートを施工することにより、公園や道路の法面、太陽光発電施設等の雑草問題を解決して、貴重な緑地資産の価値を高めることが出来ます。また、低コストでの管理が可能になるため、維持にかかるエネルギーを削減しながら社会の景観美化を推進することが出来ます。2015年度は383万㎡の緑化を行いました。

■ トナーカートリッジのリユース事業による環境保護

トナーカートリッジ本体を再利用するリユーストナーカートリッジは、限りある資源を有効に活用する循環型社会を構築するうえで重要な役割を担っています。リユーストナーカートリッジを使用することにより、本体のプラスチックの原料である原油をカートリッジ1本あたり2.5リットル削減できるという効果があります。また、リユーストナーカートリッジは本体のプラスチックの製造や廃棄処理におけるCO₂の排出量の削減にもつながるため、1本あたり2.6キロのCO₂が削減できるという効果もあります。2015年度は516トンの排出量削減につながりました。



■ 廃棄物のリサイクル

工場の生産工程で投入される材料や資材のロスを低減する、コピー用紙の再利用を行うなど、社内の省資源に努めています。また、発生したトナーカートリッジ等の廃棄物はプラスチックの原料や金属資源として、梱包材等に使用されていたプラスチックの廃棄物は梱包用ラップの原料としてリサイクルすることにより、資源の有効活用を行うと同時に最終処分量の削減に努めています。

■ 太陽光発電の導入

太陽光発電のメリットはクリーンな自然エネルギーであり、地球温暖化の原因となるCO₂の削減に大きく貢献できます。現在、当社が所有している太陽光発電所には鯖江太陽光発電所（福井県鯖江市）、三国太陽光発電所（福井県坂井市）、鹿児島太陽光発電所（鹿児島県鹿屋市）の3箇所があり、2015年度は約104万キロワットの発電を行いました。これは、当社の全事業所で使用している1年間の電力量の約2倍にもなります。

また、これらの太陽光発電所にはグリーンナップ事業部で販売している「太陽光発電用防草シート」が使われており、太陽光発電の障害となる雑草の繁茂を長期間抑えることで、効率の良い発電を維持することが出来るようになっていきます。



会社概要

会社名	株式会社白崎コーポレーション
設立	1955年7月2日
資本金	9,800万円
代表者	代表取締役社長 白崎弘隆
従業員数	126名(男76名、女50名)
事業内容	防草植栽シート、その他緑化用品資材の企画・販売 トナーカートリッジ、インクリボン、その他事務用消耗品(OAサプライ品)の販売
本社・工場	〒916-0076 福井県鯖江市石生谷町11-23 TEL:0778-62-2200(代表) FAX:0778-62-3336(代表)
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-3 小西ビル TEL:03-3667-9881(サプライビジネス事業部直通) TEL:03-6892-4400(グリーンナップ事業部直通) FAX:03-3667-9880(共通)
西日本営業所	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通3-90-1 尼崎K. Rビルディング TEL:06-6430-1711(サプライビジネス事業部直通) TEL:06-6430-1713(グリーンナップ事業部直通) FAX:06-6430-1715(共通)
九州営業所	〒812-0894 福岡県福岡市博多区豊1-6-25 TEL:092-473-1430(サプライビジネス事業部直通) TEL:092-473-1452(グリーンナップ事業部直通) FAX:092-473-1436(共通)
福井物流センター	〒915-0801 福井県越前市家久町27-1-1 TEL:0778-21-8500 FAX:0778-21-8502



沿革

2012年	濟南古菱納普商貿有限公司設立
2011年	株式会社白崎ホールディングス、株式会社白崎グリーンナップ、株式会社白崎インターナショナルを株式会社白崎コーポレーションに合併
2004年	ISO9001全事業所認証取得
2003年	株式会社白崎グリーンナップ設立
2001年	ISO14001全事業所認証取得
2000年	福井県経営品質奨励賞を受賞
1996年	防草緑化事業への参入、トナーカートリッジ再生事業への参入
1994年	白崎テープ株式会社と株式会社羽田が合併 株式会社白崎コーポレーションに称号変更、鯖江市石生谷町に本社設立
1955年	白崎テープ工業株式会社設立
1949年	個人創業

**We work towards
people living in harmony
with environment.**

みんな
自然と人間がいっしょに幸せになる仕事

